

ロールプレイ①

氏名 _____

事例**

- 楠木さん。現在 84 歳。男性。
- 妻 (80 歳) と二人暮らし
- 小児の時に肺結核に罹患した影響で、低肺機能の状態。
- 軽度の心不全も合併している
- 50 代の頃、胆石症で胆嚢切除術の既往がある。
- 60 代から両膝の変形性膝関節症で整形外科に通院。
- 78 歳の時に脳梗塞を発症し、それを機に日常生活動作能力が低下したが、自分の身の回りこのことは自分で出来ていた。
- 今年 84 歳になった。変形性膝関節症の増悪で右膝が痛み、大半をベッド上で過ごし妻に介護負担をかけるようになったため、家族や医療者と話し合った末、全人工膝関節置換術を受けた。
- 手術自体は成功し、右膝の痛みはやや改善し自宅に退院した。しかし痛みは残存し、一日の大半をベッド上で過ごす生活は変わらなかった。通院もままならなくなり、訪問診療を受けるようになった。食事は、術前は米飯を食べることが出来ていたが、時折むせるようになり、おかゆを好むようになった。
- 膝の手術から 3 ヶ月後経った頃に発熱と咳嗽症状が出現。訪問診療医は誤嚥性肺炎と診断。1 週間の抗菌薬の治療を在宅で受けた。
- しかし、それを機にさらに嚥下機能が低下し、主食をおかゆにすることに加えて、おかずはミキサーにかける必要性が出てきた。
- 徐々に全身状態が悪化し、明らかにやせが進行。
- 主治医は、今後も肺炎を繰り返す可能性が高いと判断している。
- 加えて、脳梗塞の再発や心不全増悪のリスクもあると判断している。
- 現在、楠木さんの肺炎は落ち着き、食事の時にたまにむせることはあるが調子はまずまず。楠木さん本人は今後のことを少し心配しているものの、まだまだ大丈夫と考えている様子。

【ロールプレイ①場面】本日、あなたは楠木さんと会う日です（膝の手術から 4 ヶ月後）。医療・ケアに関わる専門職として「今後のこと、もしものとき」について話そうと考えています。

【ロールプレイ①の目標】

- 病状の認識を確かめる
- 準備状態（レディネス）を確認する
- もしもの時について話し合いを導入する

【個人作業】（約 10 分）

あなたは医療・ケアに関わる専門職として、患者の楠木さんと、「今後のこと、もしものとき」について話そうと考えています。どんな言葉で話し始め、声掛けをするか、書き出してみましよう。
※各々の専門職の立場で結構です。※フィードバックに使用しますので読める字で書いてください。

【病状の認識を確認する】

【準備状態（レディネス）を確認する】

【もしもの時について話し合いを始める】